

四国ブロック会報

改第一号 2019年11月発行

広島女学院同窓会
2019年度 年間聖句



わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、
忍耐は練達を、練達は希望を生むことを。
希望はわたしたちを欺くことはありません。

ローマの信徒への手紙 5章3節～5節

本号の主な内容

- I 全国代表者会議 2019年4月21日(金) 11:30～16:00 ゲーンズホール別棟2階 中学チャペル
- II 広島女学院ホームカミングデー 2019年4月20日(土) リーガロイヤルホテル広島
上記2件につきましては、2019年10月10日発行の同窓会報「花あやめ」Vol.8でご確認ください。
- III 四国ブロック各支部会報告
愛媛・高知支部会 香川・徳島支部会 高知支部会の報告 (開催順)
みんなのひろば 私の近況一筆箋
- IV 支部会費納入のお願い(事務局)

* * * *

「I全国代表者会議のご報告 並びにIIホームカミングデー19」については、2019年10月10日発行の同窓会報「花あやめ」Vol.8をお読みになってください。従来の学院報との共同編集から独立した同窓会誌です。版を重ねるごとに構成も内容もともに充実してきているように感じます。Vol.8の「編集後記」もお見逃しなく…「えっ！」という会員さんのお声が聞こえてきそうで楽しみです。



III ブロック内各支部会報告

1. 愛媛・高知支部会のご報告

とき 2019年6月15日(土) 11:30～14:30
ところ 松山全日空ホテル 日本料理「雲海」
いつもお天気に恵まれる当支部会。梅雨入り
が3週間近く遅れた今年は、後にも先にもな
かった断続的な土砂降りでした。その中をおい
でくださった7名の本部役員さんたちを感謝し
てお迎えしました。当支部からの9名と合わせ
て計16名が本年度の参加者でした。気持ちよく整
えられた馴染みの会場は荒れ模様の天候を忘れ

るくらい。心のこもったおもてなしでした。

まず青野勝子さんの進行で讃美歌(21)289番“みどりもふかき…”で開会し、大矢会長からの母校の最新情報、また継続が決まった創立記念募金事業などの説明と進み具合のご報告が続きました。青野さんの食前の感謝のお祈りの後、二つに分かれたテーブルでは季節のお料理を楽しみながら思い思いの話題が交わされ、時に大きな笑い声で盛り上がっていました。今回も和やかな交わりができたかなというところで区切りはやはり「……ああ、栄えある女学院」。来年も元気で会いしましょうね。

…と例年はここで散会するのですが、今年は少し違いました。半数以上の方が会場を出られたところで、どなたからともなく提案が持ち上がりました。「高知でも支部会をしてはどうか、企画してほしい」。すでに提

案を通り越して力強い要請です。支部の活性化は当ブロックでも長年の課題でもあり、願いでもありましたので、まず高知支部の会員さんたちにお声をかけてご意向をうかがうことになりました。

後日、有志の方お二人に手分けしていただいて高知支部 17 名の方たちにご連絡しました。結果はいろいろでした。急な働きかけでもあり、今回は参加のご意向のあったお二人ととにかく高知支部会を持つことになりました。

でもはじめてお声を聞きし、高知支部会員の方々を身近に感じることができたように感じられ勇気づけられました。そのことがとても大きな収穫ではなかったかと思えます。電話での連絡のご協力をしてくださった当支部の稲瀬多美さん、日浦千明さんのお二人のご尽力にこの場をお借りして心から感謝申し上げます。

2. 香川・徳島支部会



と き 2019年9月28日(土) 11:30~2:00

ところ グレースマーケット 高松市北浜町12-7

雨を心配しましたが、当日は暑いくらいの快晴でした。

同窓会本部より大矢会長、塩冶副会長、田中四国ブロック長、恩師福田文子(旧姓 鎌倉)先生、初参加の武田さんと高本さんを加えた6名、総勢9名で開催しました。

讃美歌(第2 312番)を歌い、福田先生のお祈りの後、大矢会長から厳しい時代を懸命に生きる母校とそれを支える同窓会の「今」の姿をお聞きし、互いに母校への思いを新たにしました。

塩冶副会長の「女学院グッズ」の紹介でほっと一息。おいしいランチをいただきながら、各自自己紹介を交えて近況報告、すぐに胸の内をオープンにできる不思議な会、「それが同窓会」という思いを強くしました。

「何十年ぶりに」とのリクエストに応え、みんなで歌った校歌。ここではみんな元気な「花あやめ」に戻り、19年度香川・徳島支部会を無事終えることができました。(高23 短大22 有岡 公子)

3. 2019 第1回高知支部会報告



と き 2019年10月5日(土) 12:00~14:30

ところ ザクワンパルコ 新阪急高知 日本料理「七福」

高知市本町4-2-50

長年温めてきた願いが叶い開催の運びとなった高知支部会。他ブロック・支部同様、週末を狙うかのように次々やってきた大型で強い台風にすいぶんハラハラしました。ところが幸いなことに、当日は風雨で洗い磨かれた緑輝く快晴でした(開催の経緯は、当ブロック会報前項の「愛媛・高知支部会報告」をご参照ください)。

会場が完全個室ではなかったため、讃美歌や校歌は控えめました。高知支部のご出席がいずれも文学部日本文学科卒だったこともあり、母校の現状報告はブロック長が主に大学に焦点を絞って報告し、継続中の創立130周年記念募金のお願い、11月4日開催の講演・シンポジウムのご案内等については資料を基にお伝えしました。

この後、食前の感謝の祈りを青野さんが担当していただき、季節の料理を楽しみながら歓談。高知支部のお二人の感想文にもあるように、話題が次々に展開して広がり、和やかな交わりが深められたように思います。参加者は高知支部からのお二人と愛媛支部から駆けつけた4名でしたが、互いに顔の見える関係になったことはブロックと支部の活性化のために大きな意義があったように感じます。今回の支部会が後に続く多くの支部会の記念の第一歩となりますようにともに願い祈りたいと思います。(大英17 田中チカ子)

IV 年会費納入のお願いについて

年会費の額は従来通り 1,000 円にすえ置いてお願いすることになりました。今回の当ブロック会報に振込用紙を同封しております。何卒ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

みんなのひろば

「私達の地球が危ない」

この夏は長雨と台風、暑い日の繰り返しであたふたと急ぎ足で過ぎて行きました。皆さんも感じておられると思いますが、地球規模で大変な事が起きている様に思います。

特に今、気になるニュースとしてブラジルのアマソンの大火災、又インドネシアのカリマンタンの熱帯雨林の火災などなど、自然破壊のニュースは衝撃的です。これらのジャングルから排出される酸素は地球全体の20%を越えると考えられています。

昨年私はブラジルを訪問いたしました。兄が若い頃サンパウロで宣教師として働いていましたのでその教会を訪問するのが旅行の目的でした。その折イグアスの滝を観光する事が出来ました。深いジャングルと圧倒的な水量で流れ落ちる滝の印象は想像以上に迫力がありました。神さまのつくられたこの世界はなんと力強く、



美しく、そこに生きる動物、植物そして人間にまで豊かな恵みを与えて下さる世界と感激いたしました。

(ブラジル・マトグロソ州アマソン熱帯雨林火災 2019年8月23日、AFP)

子供達がまだ小学生の頃、ラワン材が安くて工作しやすいということで使っていた事を思い出します。全て輸入品で東南アジアやブラジルから買っていたのです。広大なアマソンや熱帯雨林の破壊に知らず知らずのうちに加担していた事に気がついたのです。

このまま自然破壊が続くと地球はどうなってしまうのでしょうか？ 気候変動は？ 砂漠化は？ どこまで進むのでしょうか？ 私たちに何か打つ手はあるのでしょうか？

世界のリーダー達は英知を集めて温暖化、環境破壊に歯止めをかける知恵を指し示してほしいと思います。

(高9 大英9 青野勝子)



「戦後七十四年に思う」

この四月、久しぶりに広島原爆資料館に行きました。リニューアル・オープン直前でしたが……。息子も一緒でした。彼は資料を食い入るように見つめ、語り部さんの後を追っかけ、その姿は驚くほど熱心でした。そして、「僕は原爆のことはほとんど知らなかった。」と言ったのです。

私はハッとしました。毎年多くの小学生に語ってきたのに、我が子には……。そうです。母が生きていた頃、この話、タブーにも似て、家の中では話題にしていなかったのです。原爆を、戦争を語り継ぐことの難しさを改めて感じました。戦後

七十四年に思いました。(原爆投下時刻で止まったままで残った爆心地近くの理髪店の時計)。 (大英 13 荒井宏子)



「見栄をはらない、無理しないをモットーに」

歳を重ねても 生き生きと活躍されている先輩方にいつも刺激をもらっています。遠方に住む親の介護、ときに孫の世話に忙しい日々ですが、女学院の同級生との旅行、ランチ会、それにたまの飲み会などで気分転換しながら頑張ってます。共に青春時代を過ごした女学院の絆は深く、生涯の宝物です☆

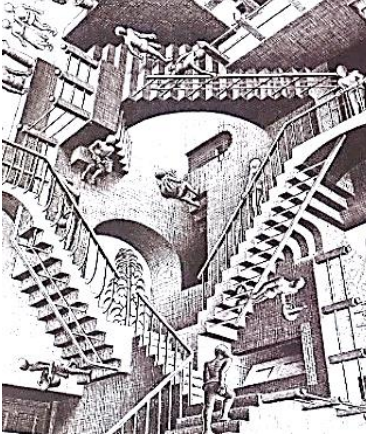
頑張ってることは特にはないけれど、これがバランスを取りながら暮らす「私の近況」です。

(高22 文英4 磯村 圭子)



「私の近況」

支部会には幸い都合が付き、毎回出席させていただいております。同窓生のご活躍にいつも感心しております。市内に住んでいる小さい孫2人が時々遊びに来てくれて、嬉しいやらくたびれるやら。10年前から習っているフラダンスとチェロが楽しみの今日この頃です。（高23 文英5 鷹子バアバ）



「ふはふはと生きて……」

ずっと先に再びこんな日がくるかなと遠い目で見ていた新婚時代。この二人だけの生活が再び始まってもう三十年。夫と私は不思議なことに、夫は定年を迎え私は専業主婦として現役でバリバリで頑張っている。

折々訪（ト）い来る孫もほとんどが社会人になり、見上げながら「産湯を使わしたのよ」と少し威張ってみる。私自身の父母は長寿な人で百二歳、八十六歳で見送ったので、私は何の根拠もないのに死があまり身近になく、友人に妙な人と言われている。そのうえ自分の目で見たい事、確かめたい事が沢山あり、許されるならもう少しもう少しと生きてみたい。

同時代を生きた友人もひとり又ひとりと彼岸に旅立つ昨今、やはり寂しい。しかし死の際までが私の人生なのでしっかり歩んでゆきたいものだと願っている。

エッシャーの絵に心地よくだまされて 風ひかる中ふはふは帰る 智恵子

（短大10 栗田 智恵子）

（註：マウリッツ・コルネリツ・エッシャー『だまし絵』で知られる20世紀を代表するイスラエルの版画家。今年愛媛県立美術館で『ミラクル・エッシャー展』が開催されました。写真は当日チケットの一部です。愛媛・高知支部 事務局）



「私の戦後74年 兄との出会い」

沖縄県糸満市摩文仁（マブニ）の丘、平和祈念公園内の慰霊碑「平和の礎（イシジ）」を訪ねました。実際に目にするのは今回がはじめてです。24万の人たちに混じって長兄の碑銘に出会いました。遺影もあり話に聞かされ、兄の存在はむろん頭では知っていました。でも今回の経験で、兄のことをはじめて「ここにいたのだ」という実感のある存在としてとらえ直せたように思います。

その場で偶然お遭いした高齢の女性がある碑銘の前で手を合わせておられました。その後のすっきりしたお顔が印象的で会釈を交わしました。摩文仁の丘は人びとにそんな魂の経験をさせる所でもあるのですね。

両親は兄の戦死について多くは語りませんでした。他の多くの人びとと同じように、私たちきょうだいの育ちを懸命に支え厳しい戦後を生きたのでしょう。身近な人を戦争で亡くされた人たちはみな、その人なりの悲しみや憤り、無念さや理不尽さなどの感情を抱え生きてこられたのだと思います。海外にも日本が起こした戦争に巻き込まれ亡くなった人、家族を亡くした人、いわれのない難儀を強いられた人が何百万もおられます。「自分ごととしてかかわっていかねければ」、そんな思いを改めて強くした私の戦後74年です。

（写真は広島県関係の碑銘の一部。2019年4月4日 R.M.撮影）

（大英17 C.T.）



「皆様こんにちは」

私はほんのこの間81歳になりました。ALT（英語助手）の先生を講師に迎えて6~7名の女性の英語会話の同好会に参加しています。かれこれ20年近くになるでしょうか。年間30回位です。

一番若い方は50代前半です。年齢差がありますので色々な話題が出ます。メンバーで助け合い補い合って自分の思いを表現しています。温かい気持ち、知恵や知識、勇気を分かち合いながら楽しいひと時をすごしています。

こういう幸せな時がいつまでも続きますように。（大英9 長井 弘美）



「私の近況」

いつの間にか「古稀」を迎える年齢になりました。3年前に主人が他界しまして今は一人暮らしをしております。103歳の母が健在ですのでまだまだ元気ではないかと思っております。

松山でも同窓の友人に恵まれ本当に感謝です。これからも青春時代を共有して楽しく歳を重ねていきたいものだと願っています。
(高20 短大19 C.H.)

「夏休み雑感」

女学院を卒業4年後以来ほぼ30年カトリック学校の教壇に立たせていただいた。その長い間、「夏休み」ということばに、いくらかの安らぎをおぼえてきた。ずっと「しあわせ」のにおいを感じてきた。「なつやすみ」にいただけた「時間的制約のゆるみ」を良いもの、心地よいものとして受け止めてきた。ところが、近年は必ずしもそうでもなくなった。学校法人が「労働者を守る」法律によって、「労働者を制約せねばならなくなった。」からである。労働時間の管理がきちんと行われるようになったことを私は、窮屈だと受け止めた。きちりと出勤と退勤の計画を長期休暇の前に提出せねばならなくなった。企画立案を得意としない私が、それを制約ととらえてしまった。現代は、どの職種においても、どこからどこまで勤務であるかについてその判別



が難しくなっている。情報社会の現代では、どの職種においても、いつからいつまでが仕事かそれが区切り難い。「仕事」が休日の勤労者を追いかけてくる。休日にも仕事ができる勤務日の仕事量を減らせる利点もあるにもかかわらず、「人を幸せにするはずの技術の何と哀しいことか」などと大人げなくとらえてしまった。感じたのは、まったく……人類に幸せをもたらすはずの科学技術は平和的にのみ使われているか？ 違うのではないか、である。

この夏も「平和」について考えるチャンスを得ることができた。数年前、広島そして長崎の平和祈念式典に参加する機会を得て、やっとそのことに興味や関心を持つようになった私である。日本にとって8/6や8/9は特別な日である。しかし、その2日が広島や長崎の小中学生にとっては、登校日ともなっているが、他の都府県の多くの子供たちはその日がどんな日であるかと特に意識することもなく大人になっている。まさに私がそうであった。

そして今、「平成」は戦争がなく平和な時代であったといわれたりしている。その終わり頃「9.11」「東日本大震災」……と、あたりまえの日々の喪失を体験することが多かった。命と向き合う機会であった。語り続けるということがクローズアップされた。風化という言葉が重くのしかかってきた。それは HIROSHIMA がずっと続けてきたことに他ならない。思い出したくない！という強い思い！そして、語らずにはいられない。語り続けなければいけない！という思い。願い、祈りが人々を動かしていると感じる。平和の鐘を鳴らしていくのはほかでもない人なのだから。

私は「会話する」以前のことができない我を思わずにはいられなかった。見てはいるが、観ていない。聞いてはいるが、聴いていない。自分だけの視点で見て聞いて、観た、聴いたつもりでいた、このままではいけない。たとえそれが今更ながらであったとしても。人として生まれた私は、人とならねばならない。人であらねばならない。私は変わることができる？！相手の気持ちに気づき、心に寄り添うことができる？！あれこれと思っていたころ、河野進牧師の詩に出会った。

まだ寒い春の朝／どこかに梅の木があるらしい／ふくよかな香りが／ただよってくる／
私の近くを／通り過ぎる人々に／キリストの香りを／贈らせてください 「香り」

花は……(略)……香るだけ と記す「花」という詩もある。平和に向けて行動する人でありたい。終えるとき、あの人の周りには、良い風が吹いていたと感じてもらえるように生きたいと改めて思った夏やすみであった。女学院で過ごしたことを改めて幸せに思った夏やすみであった。学友との再会も始まりそうである。
(文日13 黒田浩子)

「アイスブレーカーは“女学院という絆”でしょうか」

初めての支部会の2日前に豪雨に見舞われ心配されましたが、当日は願ってもない秋晴れ。支部会は無事に開催されました。愛媛支部より青野さん、荒井さん、田中さん、長井さんら4名の先輩方、高知支部より渋谷直子さんと私、坂上恵美の2名が参加しました。



初めてお会いしたにも関わらず、女学院という絆でしょうか、前にもお会いしたことがあるような気がして、和気あいあいと進行。荒井宏子さんからジョン万次郎が今でもアメリカの人々の中で、語り継がれているというお話を聞き、坂本龍馬以外の土佐の著名人のことをあらためて知るきっかけとなりました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、また高知で支部会をと願いながら散会しました。

先輩方には遠く愛媛からご参加いただき、たくさんの素敵なお話と元気をいただきました。今回が高知支部会の記念の第一歩になりますように。

(写真は「ジョン・万次郎資料館」HPより)

(高35 文日17 坂上 恵美)



「一本の電話から……第一回高知支部会♪♪」

始まりは突然いただいた一本の電話。「私、広島女学院大学の……」から始まる高知支部会へのお誘いでした。普段、初対面の方とお会いするのはなかなか勇気のいることなのですが、お電話くださった方のお気持ちがとても嬉しく、愛媛からも何人かの方がおいでくださると聞き、参加させていただくことにしました。

実際お会いしてみると、クラブや先生方のこと、また出身地や近況など、学生時代を同じキャンパスで過ごしたというだけでこんなに心地よくお話できるのかというほどに話が弾み、感心し合ったり笑ったり、湧き出るパワーもいただきました。思いがけないお誘いのおかげで温かい交わりのときをもつことができ大変感謝しております。ありがとうございました！(写真は本年春の牛田キャンパス)

(文日25 渋谷 直子)

編集後記

まずは続けることだけを当面の目標にはじめた愛媛・高知支部会報でした。この数年で香川・徳島支部の活動にも支えられ、今年度は会員有志のご提案から高知支部会を立ち上げることもでき、今回はブロック会報としてお届けすることができました。会報の発行を実現するため、ご寄稿のほか、さまざまな形でご支援ご協力、またご奉仕いただいたみなさまへの心からの感謝の気持ちをこめてお送りします。どうぞお目通しいただきますようご案内申し上げます。ご感想やご意見などはご遠慮なくお聞かせください。

また同窓会本部では、従来「女学院報」の一部としての掲載という形から、ここ数年来「花あやめ」の名称で独自に発行しておられます。ですから当ブロック会報も全体的な内容はそちらにお任せし、多くは当ブロック内の話題、情報に切り替えました。「花あやめ」もどうぞご愛読ください。

会報の印刷について、今回或るところのご厚意とご協力ででき上りました。ありがたいことです。お申し出

をお受けするかどうか迷いましたけれど、一抹の心苦しさで心からの感謝をもって受けさせていただきました。でもいつまでもご厚意に甘えているわけにもいきませんでしょう。次回からは一般の印刷会社をお願いする形を努力しなければと考えております。

私どもはこの会報を会員の方々の交流やそのきっかけづくり、ひいてはブロック、支部の活性化につながることを願い、とても大切な活動だと思っております。つきましては引き続き四国ブロック各支部の皆さまのご理解ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

広島女学院同窓会 四国ブロック

愛媛・高知支部 〒790-0962 愛媛県松山市枝松4丁目3-31-301
香川・徳島支部 〒761-0123 香川県木田郡牟礼町1824